

ジェネリック医薬品使用促進の課題および 令和1年度のアプローチについて

令和1年7月

はじめに

ジェネリック医薬品の使用促進に向けて、レセプトデータの多角的な分析を実施し、状況を可視化したジェネリックカルテからその分野の強みや弱みを偏差値、影響度で把握し、要因ごとの大まかな課題感など全体的な傾向を把握してきた。

今回、ジェネリックカルテの偏差値と影響度に着目し、2軸に整理することで課題の優先順位を検討することとした。

- ・ 偏差値は、当該指標の協会けんぽの全体における立ち位置等を示し、弱みと強みを表す。
- ・ 影響度は、当該指標がジェネリック医薬品使用割合に与える影響を示し、マイナス影響が大きいほど課題が大きいことを意味する。
- ▣ 偏差値が低く、マイナス影響が多きものほど、その分野において優先度が高い課題といえる。

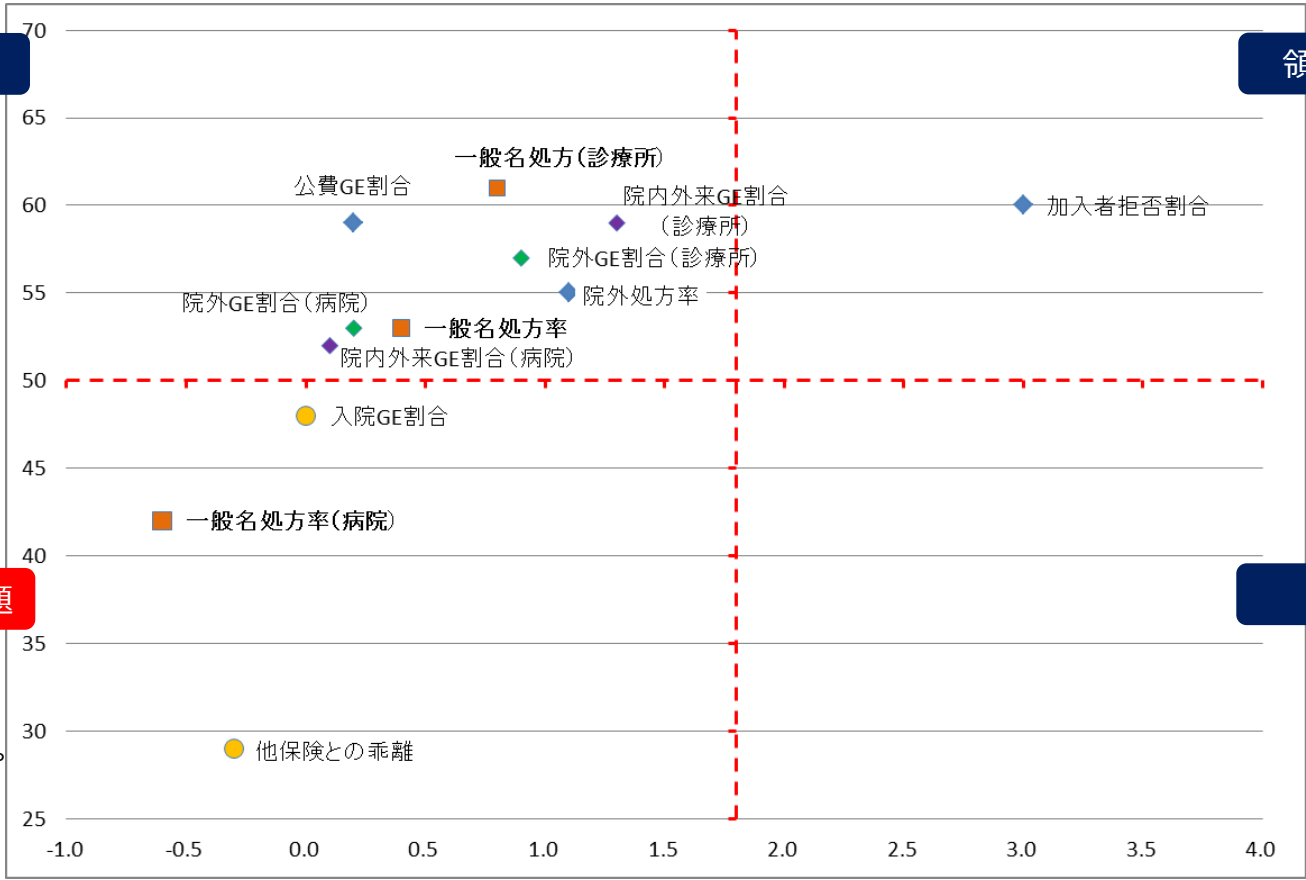
令和2年（2020年）9月末までにジェネリック医薬品使用割合を80%以上（数量ベース）とする目標を達成するため、問題点や課題を整理し、関係団体と連携しジェネリック医薬品使用促進に取り組んでいきたいと考えております。

群馬県の課題を特定する

群馬の課題：診療種別

病院の一般名処方率の底上げが必要
 全体のGE率が上がれば、他保険との乖離幅が縮小と思われる

偏差値



領域3：重点維持

比較的成績は良いが、マイナス影響が大きい領域。偏差値の水準を保つよう注意が必要。

領域4：現状維持

比較的成績が良く、マイナス影響も小さい領域。現状を維持すれば十分。

領域1：最優先課題

成績が悪く、マイナス影響も大きい領域。最優先で改善が必要。

領域2：改善

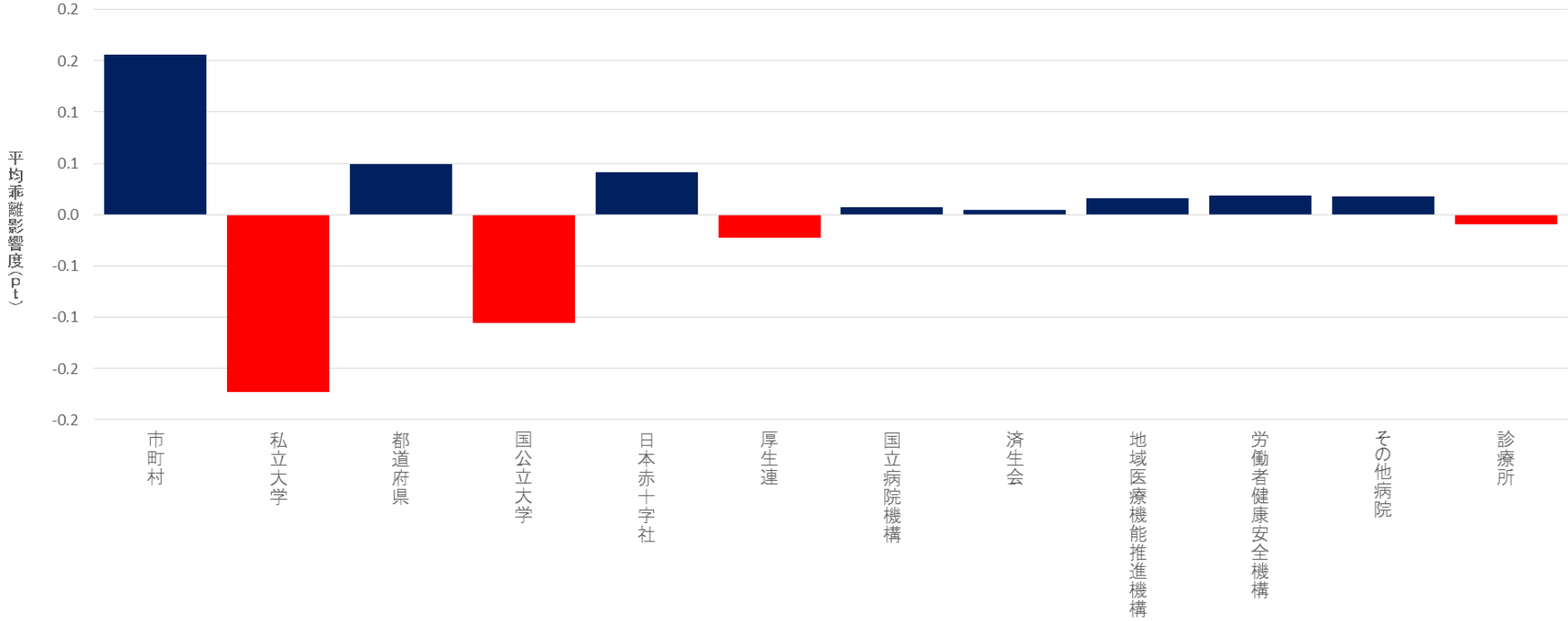
成績は悪いが、マイナス影響は比較的小さい領域。最優先ではないが改善が必要。

影響度

全国の課題：設置主体別

各設置主体別に、平均からのかい離を示したもの
私立大学、国公立大学におけるマイナスのかい離幅が大きい傾向にある
マイナス傾向にある設置主体に対して、効果的なアプローチを検討する

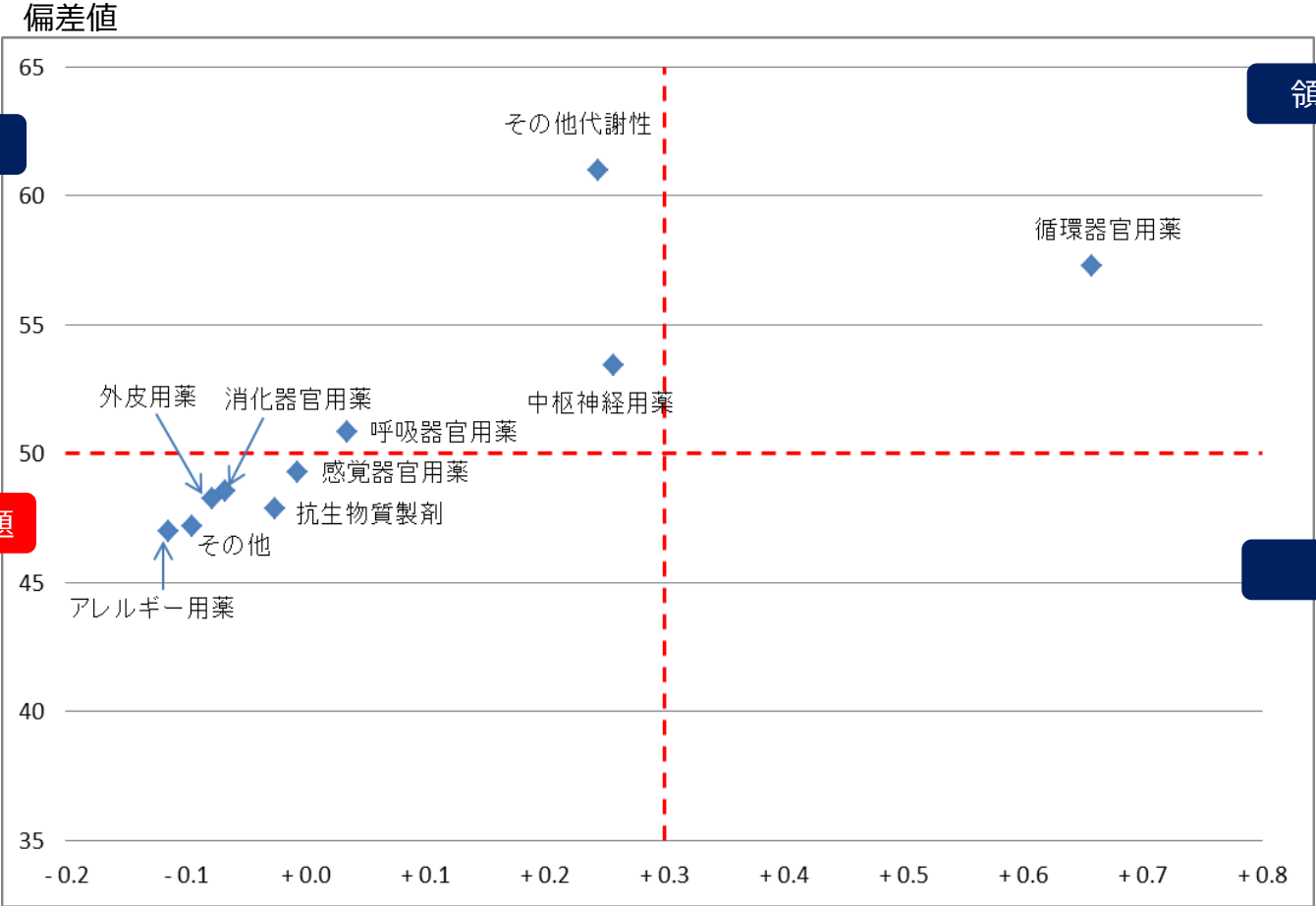
平均乖離影響度(設置主体別)



群馬県の課題を特定する

群馬の課題：薬効分類別

主な薬剤の60%が最優先課題となっていることから、薬剤師会を通し保険薬局へのアプローチ方法を検討する



領域3：重点維持

比較的成績は良いが、マイナス影響が大きい領域。偏差値の水準を保つよう注意が必要

領域1：最優先課題

成績が悪く、マイナス影響も大きい領域。最優先で改善が必要

領域4：現状維持

比較的成績が良く、マイナス影響も小さい領域。現状を維持すれば十分

領域2：改善

成績は悪いが、マイナス影響は比較的小さい領域。最優先ではないが改善が必要

群馬県の課題を特定する

群馬の課題：年代別

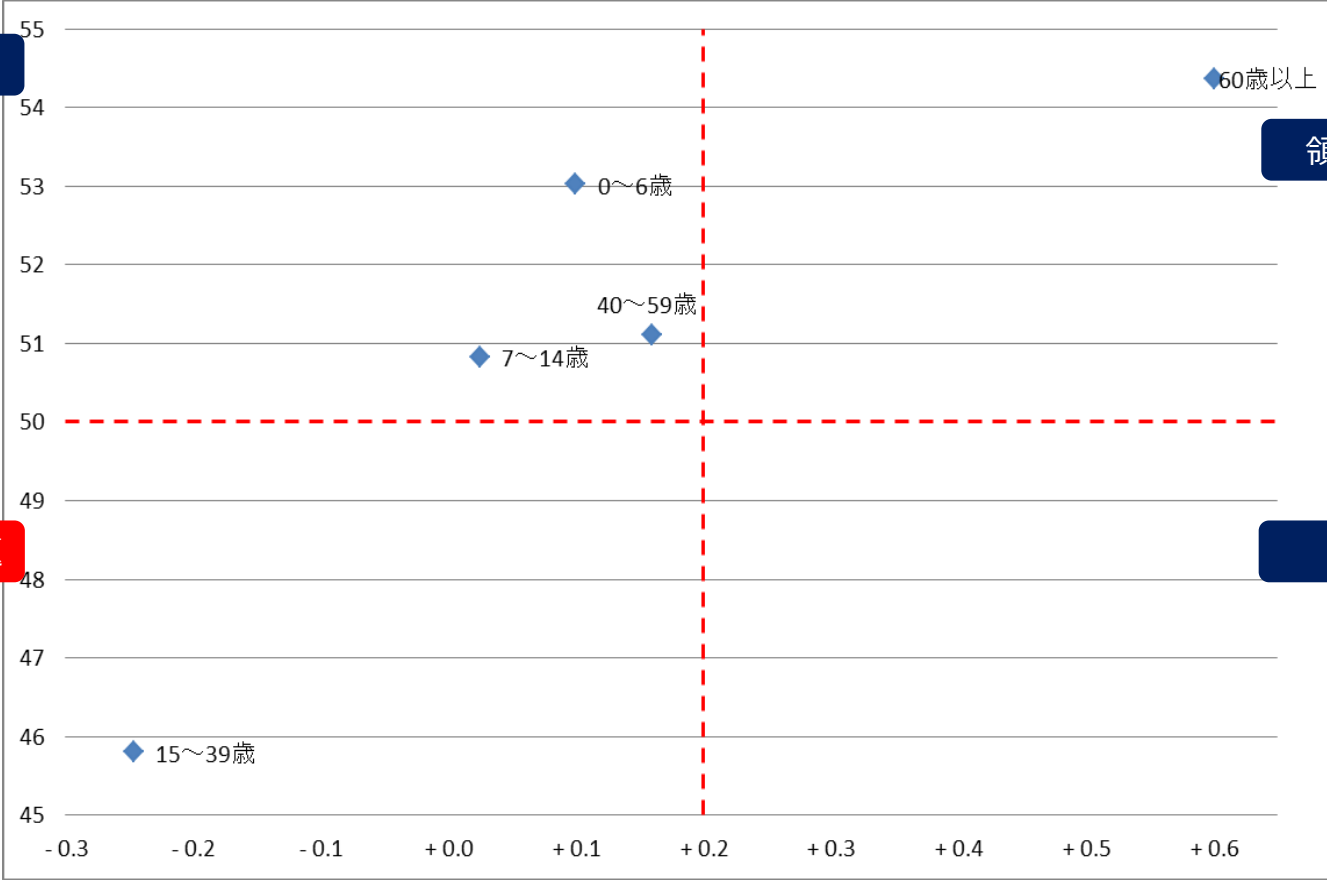
最新の結果から、小中学生より高校生～30代までのアプローチヘシフトが必要と考える

領域3：重点維持

比較的成績は良いが、マイナス影響が大きい領域。偏差値の水準を保つよう注意が必要

領域1：最優先課題

成績が悪く、マイナス影響も大きい領域。最優先で改善が必要



領域4：現状維持

比較的成績が良く、マイナス影響も小さい領域。現状を維持すれば十分

領域2：改善

成績は悪いが、マイナス影響は比較的小さい領域。最優先ではないが改善が必要

対保険薬局

- ジェネリック医薬品の使用率（過去1年半の実績）により、優良保険薬局の表彰およびHP掲載
- ジェネリックカルテの送付

対医療機関

- 生活習慣病予防健診実施機関に対し、ジェネリックカルテを送付
- 影響度の大きい医療機関に対し、ジェネリックカルテの送付およびジェネリック医薬品の使用、一般名処方促進を依頼
- 県立の医療機関に対する啓発について、群馬県薬務課へ協力依頼
- 群馬県、厚生局、保健者協議会に対し連名で医師会・歯科医師会に対し一般名処方促進に対する協力依頼（準備中）

対加入者（広報の強化）

- 15歳から39歳のジェネリック医薬品の使用率が低いところから、群馬県内の高校、大学等へのアプローチ（ポスター掲示・チラシ配布）を実施
- 東毛地区の市町村のHPにバナー広告を掲載を検討
- GEのほか、アレルギー薬の使用が増える時期にAGについても広報する